

ビジネスで成功するのも大切ですが、「幸せ」もなければ本末転倒です

自分が最も気持ちいいやり方で仕事をして稼ぎましょう

仕事をする上で、

幸せになることが大切

山口 本田さんに初めて会ったのは、2002年ごろでしょうか。

本田 私が出版デビューしたのが01年ごろですね。出会ってから、もう3年半くらい。あるセミナー会社から、少人数制講座の講演依頼があり、山口さんがセミナーに申し込まれたのが始まりでした。

山口 セミナーに参加させてもらって、本田さんが提唱する「お金の関する考え方」に衝撃を受けました。実際にお会いするまで、もっとガツガツしていて豪快な人かなと思っていたのですが、まったく違っていたので驚きましたよ(笑)。

本田 私はこれまで、さまざまな本を読んできましたが、「ビジネスを通じて人が幸せになる」という観点で書かれた書物がほとんどないことに気づき、そんな本を読みたいなと思っていて……。

今回のゲストは、アイウエオフィス代表の本田健氏です。50万部を超えるベストセラーとなった「ユダヤ人大富豪の教え」の著者であり、現在もセミナーや講演などで活躍する「お金の専門家」に、今号と次号の2回に分けてお話を伺います。なお今対談は、本人のご意向により、顔写真の撮影を控えさせていただきました。

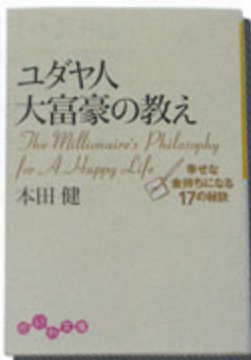
聞き手／山口哲史(株)プロアクティブ代表

アイウエオフィス代表

本田 健

先見
トップ・インタビュー

TOP
先見
interview



50万部を突破した本田健氏の「ユダヤ人大富豪の教え」。今年2月より文庫本（だいわ文庫）となって、好評発売中

お金持ちになったり、ビジネスで成功することはよいことですが、「幸せ」も同時にないと本末転倒なんじゃないかと考えていたことが、本を書く動機でした。

山口 お金とは、皆に共通していて、分かりやすく、あこがれもある反面、ある種の卑しさもあり、テーマとしてはデリケートだと思います。そこに、「幸せ」という価値観を結び付けること自体が驚きでした。

最近では、「早く成果を挙げてセミリタイアしたい」というトレンドもあります。これは、本田さんが伝えたいセミリタイアとは意味合いが違いますが、よく誤解されるのではないのでしょうか。

本田 私はもう7、8年前から「育児セミリタイア」という生活を送っています。娘の幼稚園のために長野県に引っ越しをして、今度は小学校のためにアメリカに移りました。毎日がとても充実した生活です。

一方、マスコミで取り上げられているのは、効率よくお金儲けをして、若くしてセミリタイアする価値観の

方ですよ。ただ、ライブドアのような事件があつて、短期間でお金を稼げれば人は幸せになれるかといえ、必ずしもそうではないことが分かってきた。かといって、自分の嫌いな仕事をずっと続けていくことで幸せになれるかといえば、それも違う。仕事は、やり過ぎても働かなさ過ぎて幸せにもなりません。働かない点でいえば、ニートの人たちはセミリタイアしているともいえます。

山口 なるほど。ニートはセミリタイアだったんですね。

本田 ある意味では。自分も数年間、学校に通うでもなく、仕事をしていくわけでもなく、育児だけをやっていたので、ニートの人たちの気持ちがよく分かるんですよ。

最近では、20〜30歳代で稼ぎまくって莫大な資産を築く人がいれば、逆にまったく仕事をしない人もいます。しかし、それではあまりにも両極端なので、私たちはその中間で、自分が最も幸せだというポイントを見いだすことが大切になってくると思います。私がかつてきた「育児セミリタイア」も、1つのあり方だし、これで幸せになれる人もなれない人も両方いると思いますよ。

山口 本田さんの「育児セミリタイア」を知り、そのモデルにあこがれ

る人もいるでしょう。しかし、真に考え方が理解できていないと、表面的な部分のまね事に終わってしまう。多くの人が会社勤めをしながら生活していく中で、「大好きなことをして自分らしく生きよう」といった、潜在的な気持ちはあるけれど、実際にどうしていいかわからないと悩んでいると思います……。

本田 私は、「これがベストだ」という人生はないと思っています。その人の人生の段階によっても、価値観は変わっていく。例えば私の場合も、子どもが幼いときはセミリタイアすることが大切だったので、今は8歳になり「友達という方が楽しい」と言われてしまいました。

これからはライフワークに力を注ぎたい。自分にとって「育児セミリタイア」とは、「人生の中休みを取る」という考えの方がしっくりときていきます。そして、育児の後は「生涯現役」という考えをしています。

山口 「稼いだからもう終わり、達成したから後はセミリタイア」という考えでは問題もありますが、「人生の中休みを取る」という考え方に、共感する人は非常に多いでしょう。

しかし、まだ一般的には「勢いに乗って前に」といった風潮で、時代に乗り遅れないようにと自己調整を

今の日本には「人生の見本」が少な過ぎます